



山村振興のキーポイント

自分たちが楽しむことが来村者への最大のおもてなし

【イモリ谷から学ぶ】



活動理念

自分たちが楽しむことが第一

昔から住んでいる人もU・Iターン者も松本集落での暮らしに満足している。集落での暮らしを良いものと自己評価することが重要で、それによって地域での活動に積極的になっていくという好循環が生まれる。

教育としての農村体験

地域の生業をまるごと体験

松本営農組合で行っている大豆栽培、その大豆から豆腐をつくる加工グループ等と連携して、イモリ谷の農業を支える大豆生産・加工の一連を小学生等に体験させ、農業体験を通した食育などの教育効果にもつながっている。

人材

U・Iターン者の参画が村に元気を与える

自分たちが楽しみ、それをホスピタリティに活かすことが来村者への最大のアピールとなり、U・Iターン者の増加に寄与している。そして、彼らのように新鮮な価値観をもった人材を積極的に村づくりに溶け込ませることで、古い習慣やしがらみがなく、角度の違った意見・アイデアが村づくりに活かされる。

組織の連携

住民総参加で取り組む

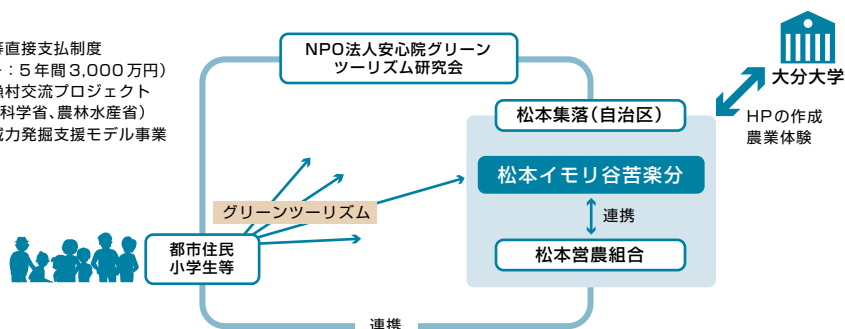
総戸数56戸の小さな集落であるため、全ての世帯数が参加可能な規模であり、総参加で取り組むことにより、集落に一体感が生まれる。



活用した組織と制度

イモリ谷で子どもや学生等が農村体験

- ・中山間地域等直接支払制度
(平成12年～：5年間3,000万円)
- ・子ども農山漁村交流プロジェクト
(総務省、文部科学省、農林水産省)
- ・農山漁村地域力発掘支援モデル事業
(農林水産省)



足を引っ張らずに、手を引っ張ろう



安心院松本イモリ谷苦楽分 荷宮英二氏

私は安心院町の小さな村「松本イモリ谷」で農業をやっています。経済的に豊かとはいえませんが、楽しく暮らしています。

10年前に「つまらんもんじゃけど食べちょくれ」と漬物を勧めていたおばちゃんが、今では「美味しいき食べちょくれ」と自信をもって勧めます。夜の真っ暗闇を卑下していたおじちゃんが、旅人に「星がよう見えるじゃろ」と誇らしげに語ります。「何もないけど、なんでもある」そんな風に村人が思えたら、村は大きく変わります。「田舎だからできること」「足を引っ張らず、手を引っ張ろう」を合言葉に安心院のグリーンツーリズムは始まりました。農村の意識改革です。田舎特有の閉鎖的考え方や、長年の固定化された概念を変えることは難しいですが、気持ちの持ち方を変えなければ、高齢化と少子化等で確実に村は減びます。

意識改革のきっかけとなるのがグリーンツーリズムによる交流です。旅人の何気ない一言が村人の考えを一変させることもあります。修学旅行生の涙を見て、村人も感動をもらいます。また、集落グリーンツーリズムを通じて多くの応援団もできました。高齢化が進む村は応援団の人たちの力を借りなければ生き残れません。

村に移り住む人も増えています。イモリ谷の総戸数56戸のうちIターン者が9戸も占めており、現在イモリ谷には空き家がありません。市町村合併で地域を大きくする方向に進んでいますが、人口約150人とほんの小さな集落「イモリ谷」では、交流・連携のネットワークと村人の力をあわせた活動によって「田舎・農業は自分たちで守っていく」という意識が高まっています。今後もこの信念を維持し、楽しく活動を持続していきます。



今後の課題・展望

NPO法人化による幅広い活動へ

目標1

イモリ谷苦楽分のNPO化

任意の組織から、NPO法人化し、村おこしの中核組織として幅広い活動を行う。

目標2

農村塾・自然塾の開校

農業体験学習の取組に加え、農村の理解の場、教育分野への農業の体験をプログラム化、食農・環境教育の活動を展開する。

目標3

農村レストラン開設、組織的な農村民泊

地域独自の食材開発による農村レストランの開設。また、個別対応の農家民泊から組織的な運営による民泊へと展開する。

目標4

技術の伝承

集落内の人材バンクとしての「百匠集団イモリ組」を結成し、イモリ谷の様々な技術を地域内外へ伝承する。

関連・関係する団体

NPO法人 安心院グリーンツーリズム研究会 〒872-0521 大分県宇佐市安心院町下毛1046 Tel: 0978-44-1158
宇佐両院地域資源活用協議会「一輝(かがやき)」 〒872-0841 大分県宇佐市安心院町矢畑487-1 Tel: 0978-44-4244